

1 単元名 『論語』の一節を引用して後輩に贈るブックレットを作ろう  
「論語」(東京書籍3年)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、「『論語』の一節を引用して後輩に贈るブックレットを作る。」という言語活動を単元を貫いて設定した。ブックレットには、「論語」の一節を引用した短い批評文である300字のコラムと、そのコラムを交流して、再構築した考えをまとめた200字の文章を位置付ける。批評文を書くには、主観だけでなく、客観的、分析的に物事を見つめる姿勢が必要であり、そのことが、「論語」の特性や価値を捉えることにつながると考える。これらの活動を通して、自分の考えを述べる文脈の中に古典の世界を取り入れることができるようにする。したがって、「目的に応じて文や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする」(C読むことオ)ことを実現するのにふさわしい言語活動であると考え。

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒は、これまで「おくのほそ道」の学習の中で、文章を読み取り、芭蕉のもの見方や考え方に触れて自分の考えを書く学習をしてきた。その結果、芭蕉の心情や場面の展開を読み取ったり、芭蕉の言動や作品に対して感想を書いたりする力が身に付いてきた。しかし、古典作品に表れてくるもの見方や考え方に対して、自分の考えを持つことには課題があると言える。

(2) 教材観

「論語」は、古くから読み継がれてきた古典作品であり、日本人の価値観に少なからぬ影響を与えてきた。「論語」は、一つ一つが深い意味を持っており、孔子の学問や人生に対する考えが述べられている。これから人生の次なる場へと歩いていく生徒が、含蓄ある孔子の言葉に触れることで、自己の在り方や今後の人生に思いを馳せるにちがいない。以上のことから、古典学習の締めくくりとして、古典に親しみながら自分の考えを深めるように読むために、適した教材であると言える。

(3) 指導観

本単元では、「『論語』の一節を引用して後輩に贈るブックレットを作る」という単元を貫く言語活動を行う。まず、社会生活に関わる新聞記事とそのテーマを五つ提示する。そして、既存の知識や体験を喚起するために、関連する言葉をつなげていくマッピングを通して、テーマから複数のキーワードを見付けられるようにする。そのキーワードを基にして自分の考えを書くことで、社会の出来事と自分の知識や体験を結び付けられるようにする。次に、生徒が興味・関心を持つような八つの「論語」の言葉を教師が提示し、社会の出来事に対する考えと「論語」の言葉を結び付けることで、選んだ言葉の一節を引用して自分の考えを書けるようにする。最後に、書いた文章を同じテーマを選んだ生徒同士、異なるテーマを選んだ生徒同士の2段階で交流し、再構築した考えをまとめることで、「論語」のもの見方や考え方に触れて自分の考えを明確にすることができるようにする。このような活動を通してブックレットを作成すれば、古典に親しみながら自分の考えを深めることができると考える。

4 単元の目標

- 「論語」に表れたもの見方や考え方と自分の知識や体験を結び付けようする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 「論語」のもの見方や考え方に触れて自分の考えをまとめることができる。  
(読むこと)
- 訓読の仕方について理解することができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・「論語」に表れたものの見方や考え方と自分の知識や体験及び社会の出来事を結び付けようとしている。	・現代との結び付きを基に、「論語」のものの見方や考え方に対して、自分の考えをまとめている。	・返り点や書き下し文を読むための訓読の仕方について理解している。

## 6 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習活動	主な評価
一	1	新聞記事を読み、社会の出来事に目を向ける。  「論語」の概要と漢文の基礎知識を理解する。	・学習の見通しを持ち、社会の出来事に目を向けようとしている。 (関心・意欲・態度) ・訓読の仕方について理解している。 (言語についての知識・理解・技能)
	2	社会の出来事と自分の知識や体験を結び付ける。	・社会の出来事と自分の知識や体験を結び付けて、考えをまとめている。 (読む能力)
二	1	「論語」の一節を引用し、コラムを書くための構想メモを作成する。	・進んで音読をしたり暗唱をしたりしている。 ・「論語」の一節を引用し、社会の出来事との結び付きを意識して構想メモを作成している。 (読む能力)
	2	「論語」の言葉の一節を引用して300字のコラムを書く。	・構想メモを基に、「論語」のものの見方や考え方に触れて、コラムを書いている。 (読む能力)
三	1	コラムを読み合い、「論語」のものの見方や考え方についてまとめる。	・交流を通して、「論語」のものの見方や考え方について自分の考えをまとめている。 (読む能力)
	2	コラムを読み合い、「論語」と現代 <small>(本時)</small> の結び付きを基に、人間の生き方について200字でまとめる。	・交流を通して、「論語」と現代の結び付きを基に、人間の生き方について自分の考えをまとめている。 (読む能力)
	3	要旨を踏まえたキャッチコピーを考え、ブックレットを完成する。	・コラムの要旨を踏まえたキャッチコピーを考えている。 (読む能力)

## 7 本時の学習

### (1) 目標

異なるテーマを選んだグループでの交流を通して、「論語」と現代の結び付きを基に、人間の生き方について考えをまとめることができる。

### (2) 準備・資料

自己評価カード、ワークシート、挿絵、付箋、吹き出し黒板

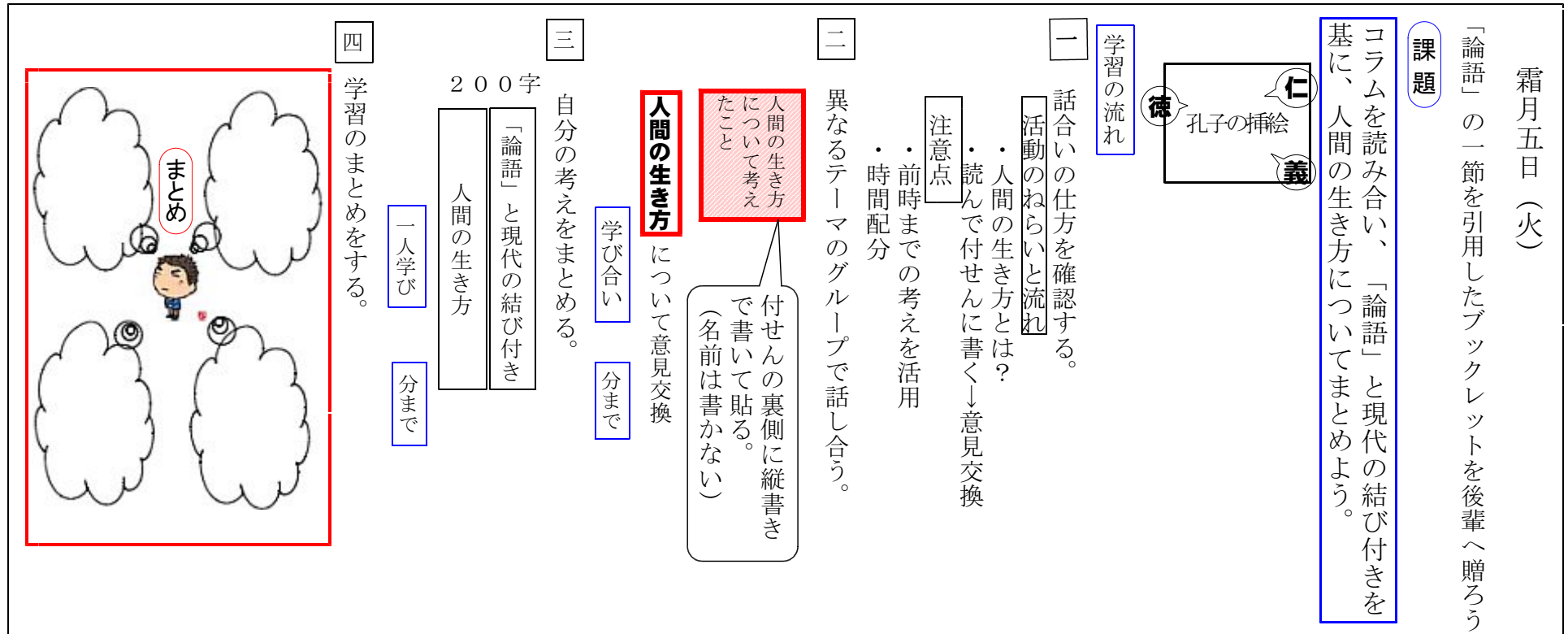
(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点																																																																																																																																																																										
<p>1 学習課題を確認し、音読と暗唱をする。</p> <p>コラムを読み合い、「論語」と現代の結び付きを基に、人間の生き方についてまとめよう。</p> <p>2 話し合いの仕方を確認する。 (目的) 人間の生き方についての考えを深める (流れ) ①コラムを読み、考えを付箋に書く ②意見交換をする</p> <p>3 異なる新聞記事のテーマを選んだグループで話し合う。 (1) コラムを読み合って、考えを付箋に書く。 (2) 人間の生き方について意見交換をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生徒A 「東京オリンピック決定」 「己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ」 おもてなし=思いやりの心が大切だと思います</p> <p>生徒B 「震災直後の日本社会」 「己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ」 私も相手のことを考えて行動できるようにしたい</p> <p>生徒C 「宮崎駿氏の引退」 「一以て之を貫く」 一つのことをやり抜くことに価値がある</p> <p>生徒D 「情報化社会」 「徳は孤ならず、必ず鄰あり」 人に優しく接するようにしたい</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読と暗唱をすることで、「論語」を身近に感じながら、そのものの見方や考え方を捉えられるようにする。</li> <li>話し合いの目的と流れを確認することで、本時の学習の見通しを持つとともに、お互いの考えの共通点と相違点を比較し、自分の考えを伝えることができるようにする。</li> <li>コラムを読んで、よい考えだと思うところを付箋に書くとともに、話し合う際には、友達に自分の考えがよく伝わるように補足・説明しながら意見交換することを確認することで、目的を持って活動できるようにする。</li> <li>コラムを読んで考えたことを友達の意見に左右されないように、赤色の付箋の裏側に書いて貼ることを指示し、話し合いに深まりが出るようにする。</li> <li>付箋に考えを書けない生徒には、友達の文章の生き方に対する考えの部分を書き抜くように助言し、考えに着目して読めるようにする。</li> </ul>																																																																																																																																																																										
<p>4 付箋の内容を整理し、自分の考えを200字でまとめる。 (1) 付箋の内容を整理する。 (2) 自分の考えをまとめる。</p> <table border="1" style="font-size: small; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr><td>ん</td><td>こ</td><td>と</td><td>自</td><td>か</td><td>私</td><td>を</td><td>思</td><td>い</td><td>と</td></tr> <tr><td>で</td><td>が</td><td>い</td><td>分</td><td>れ</td><td>は</td><td>を</td><td>い</td><td>こ</td><td>こ</td></tr> <tr><td>今</td><td>多</td><td>う</td><td>が</td><td>一</td><td>は</td><td>考</td><td>い</td><td>と</td><td>こ</td></tr> <tr><td>後</td><td>な</td><td>だ</td><td>し</td><td>う</td><td>己</td><td>の</td><td>行</td><td>の</td><td>再</td></tr> <tr><td>の</td><td>る</td><td>だ</td><td>ほ</td><td>日</td><td>の</td><td>動</td><td>欠</td><td>再</td><td>種</td></tr> <tr><td>人</td><td>と</td><td>そ</td><td>い</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>一</td></tr> <tr><td>生</td><td>を</td><td>う</td><td>と</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>を</td><td>思</td><td>う</td><td>と</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>力</td><td>す</td><td>と</td><td>を</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>強</td><td>れ</td><td>を</td><td>相</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>く</td><td>こ</td><td>ば</td><td>手</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>歩</td><td>の</td><td>真</td><td>に</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>ん</td><td>で</td><td>ん</td><td>も</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>で</td><td>を</td><td>も</td><td>て</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>い</td><td>ち</td><td>ら</td><td>を</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>きた</td><td>い</td><td>に</td><td>え</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> <tr><td>い</td><td>刻</td><td>る</td><td>る</td><td>言</td><td>の</td><td>動</td><td>知</td><td>種</td><td>論</td></tr> </table>	ん	こ	と	自	か	私	を	思	い	と	で	が	い	分	れ	は	を	い	こ	こ	今	多	う	が	一	は	考	い	と	こ	後	な	だ	し	う	己	の	行	の	再	の	る	だ	ほ	日	の	動	欠	再	種	人	と	そ	い	言	の	動	知	種	一	生	を	う	と	言	の	動	知	種	論	を	思	う	と	言	の	動	知	種	論	力	す	と	を	言	の	動	知	種	論	強	れ	を	相	言	の	動	知	種	論	く	こ	ば	手	言	の	動	知	種	論	歩	の	真	に	言	の	動	知	種	論	ん	で	ん	も	言	の	動	知	種	論	で	を	も	て	言	の	動	知	種	論	い	ち	ら	を	言	の	動	知	種	論	きた	い	に	え	言	の	動	知	種	論	い	刻	る	る	言	の	動	知	種	論	<ul style="list-style-type: none"> <li>もらった付箋を読み直す際には、文章の横に赤色の線を引くことを指示し、着目した部分が一目で分かるようにする。</li> <li>話し合いを通して知ったお互いの考えを取り入れることを助言することで、自分の考えを深められるようにする。</li> <li>自分の考えを書けない生徒には、書き出しとまとめの部分の型を提示することで、書き出せるようにする。</li> </ul> <p>④ コラムを読み、話し合いを通して、「論語」の価値を捉え、現代との結び付きに触れて、自己の在り方や今後の生き方について考えをまとめている。 ( [読] ワークシート・活動の様子 )</p>
ん	こ	と	自	か	私	を	思	い	と																																																																																																																																																																		
で	が	い	分	れ	は	を	い	こ	こ																																																																																																																																																																		
今	多	う	が	一	は	考	い	と	こ																																																																																																																																																																		
後	な	だ	し	う	己	の	行	の	再																																																																																																																																																																		
の	る	だ	ほ	日	の	動	欠	再	種																																																																																																																																																																		
人	と	そ	い	言	の	動	知	種	一																																																																																																																																																																		
生	を	う	と	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
を	思	う	と	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
力	す	と	を	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
強	れ	を	相	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
く	こ	ば	手	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
歩	の	真	に	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
ん	で	ん	も	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
で	を	も	て	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
い	ち	ら	を	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
きた	い	に	え	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
い	刻	る	る	言	の	動	知	種	論																																																																																																																																																																		
<p>5 考えを発表し、本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>「論語」に描かれた人間の生き方は現代社会にも通じるものがある。</li> <li>今後も「論語」の教えを実行して、誠実に生きていきたい。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめた考えを発表し合うことで、「論語」と現代の結び付きや、それぞれの人間の生き方に対する考えを振り返ることができるようにする。</li> <li>次時は、キャッチコピーを考えてブックレットを完成させることを伝え、学習意欲を高める。</li> </ul>																																																																																																																																																																										

# 板書計画

※ 表現力を高める手立て

- 「論語」と現代の結び付きを基に、人間の生き方について考え、話し合う活動を通して表現力を高める。



学習形態

準備するもの 自己評価カード, ワークシート, 挿絵, 付箋, 吹き出し黒板

記事のテーマを選び、マッピングシートを書こう。

最終プレゼンで勝ち取った 東京オリンピック決定！

東京オリンピック決定の瞬間  
跳び上がって歓喜している写真

壇上に立った滝川さんは、鼻にかかった「本場」のフランス語を場内に響かせた。  
「東京は皆さんをユニークにお迎えします。日本語で『おもてなし』と表現します。それは訪れる人を慈しみ、見返りを求めない深い意味があります」東京の力を世界に向けて発信するコミュニケーションターとして、「ネタ」の仕込みもバッチリだった。(一)昨年にと落し物として東京の警察署に届けられた現金は三〇〇〇万ドル(約二十九億七〇〇〇万円)以上(二)七万五〇〇〇人の旅行者を対象とした最近の調査で、公共交通機関の利便さ、街の清潔さ、タクシートの運転手の親切さにおいて東京は世界一であることを強調した。  
「(おもてなしは)先祖代々受け継がれ、最先端の文化にも根付いています。なぜ日本人が互いに助け合い、お迎えするお客さまを大切に示しています。」

暗唱する「論語」の番号

情報化社会の光と影

情報化社会  
地球を取り巻く  
ネットワークの図

「このところ娘がずっと友達とメール交換ばかりしているんですよ。やめなさい、と注意しても、『だって向こうからメールがあるから返事しないといけないし。』の一点張りです。」と不満を訴えてきたのは、ピアノ教室を開いている先生の言葉だ。いつも高貴な雰囲気的女性であっただけに少し驚いた。そこで情報化社会について考えてみたい。  
昨今のインターネットの普及には目を見張るものがある。家庭にいながらにしてあらゆる情報を手に入れることができる便利な社会になってきた。しかし、情報通信ネットワークには、様々な利点がある反面、使い方によっては害をもたらすこともあるだろう。事実、ネット犯罪の件数は年々増加の一途をたどっている。このような情報社会に起こる問題を適切に判断し、情報モラルを身に付けていくことが必要なのではないか。

暗唱する「論語」の番号

宮崎駿監督

引退会見

(ある巨匠の生き方)

宮崎駿氏引退

笑顔で手を振る宮崎氏の写真

宮崎監督は会見の冒頭、「何度も辞めるといつて騒ぎを起こしてきたが、今回は本気で」と語った。今後の活動について、これまで作品を発表してきたスタジオジブリのプログラムからは外れ、「何をやるか、やらないかは自由」とした上で、「前からやりたかったことがある。それはアニメではありませんと述べた。  
スタジオジブリの今後については、鈴木敏夫プロデューサーが、十一月二十三日公開予定の高畑勲監督「かぐや姫の物語」や来夏公開をめざす新作を準備していると説明。宮崎監督は「やっと上の重しがなくなるから、若いスタッフからこういうものをやらせろ」という声が出ればいい。色々な人間の意欲、希望、能力にかかっている」と語った。

暗唱する「論語」の番号



引用する「論語」の言葉を選ぼう。

氏名( )

※ 波線部を引用しましょう。

※ ○は置き字(読まない字)

※ □は注釈あり

一 思いやりって何だろう？

子貢…孔子の弟子  
恕…思いやり

子貢問曰、「有一言而可以終身  
行之者乎。」子曰、「其恕乎。  
己所不欲勿施於人也。」

子貢問ひて曰はく、「一言にして以つて終身之を行ふべき者有りや。」と。  
子曰はく、「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。」と。

子貢がお尋ねして言った、「一言だけで一生行つていけるといふことがありませんか。」と。  
先生は言われた、「それは恕だね。自分がしてほしくないことは他人にしてはならないよ。」と。

二 本当の過ちとは？

子曰、「過而不改、是謂過矣。」

子曰はく、「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。」と。

先生が言われた、「過ちをしたことに気づいても改めない、これを本当の過ちといふのだ。」と。

三 付和雷同 (深く考えずに同調する)

子曰、「君子和而不同、小人同而不和。」

子曰はく、「君子は和して同せず、小人は同じて和せず。」と。

先生が言われた、「君子は人と調和するが何にでも賛成はしない、小人は何にでも賛成するが調和はしない。」と。

四 分かっているつもりやらない人

義…人としてなすべき道

子曰、「見義不為、無勇也。」

子曰はく、「義を見て為さざるは、勇なきなり。」と。

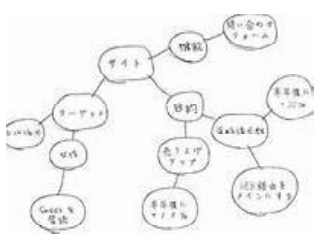
先生が言われた、「行ふべきことを前にしながら行わないのは、臆病者である。」と。





選んだ記事のテーマから、マッピングをして、キーワードを見つけよう。

- ・思い浮かんだ言葉をつなげていく。
- ・重要なキーワードを赤線で囲む。



記事のテーマ

「マッピングから見つけたキーワード」と「身近な知識や体験」を結び付けてみよう。

Vertical writing area with dashed lines for notes.

「論語」の一節を引用したブックレットを後輩へ贈ろう

三年組 氏名( )

「論語」の一節を引用して、コラムを書くための構想メモを書こう。

引用する「論語」の一節

- ・字数は( )内を目安に書くこと。
- ・三段落構成で書くこと。「書き出し」・「知識や体験」・「自分の考え」
- ・引用は、「」で正確に書き抜くこと。

【書き出し】(五〇字程度)

-----

-----

-----

【結び付ける知識や体験】(一五〇字程度)

-----

-----

-----

-----

-----

【自分の考え】(一〇〇字程度)

-----

-----

-----

-----

前時に考えた内容を基に書くこと。



後輩に「論語」の魅力を伝えるコラムを書こう。

・字数は二五〇字以上、三〇〇字以内で書くこと。  
 ・三段落構成で書くこと。(構成メモを参考に)  
 ・「論語」の一節を引用して書くこと。(「」で正確に書き抜く。)

「論語」の一節を引用したブックレットを後輩へ贈ろう

三年組 氏名( )

れ	難		気	ま	思	絶	も	を	た。	し		も	こ	
か	し	常	持	し	い	望	の	送	私	た	私	し	れ	一
ら	い	に	ち	た	や	と	に	り	も	。	は	な	は	己
も	こ	相	が	。	り	命	感	ま	家	あ	こ	い	一	の
実	と	手	強	も	、	の	じ	し	族	の	れ	一。	自	欲
行	で	の	か	し	助	危	た	た	と	時	を	と	分	せ
で	す	立	っ	、	け	機	こ	。	共	、	東	い	が	ざ
き	が	場	た	一	合	に	と	あ	に	日	日	う	し	る
る	、	を	ら	自	い	さ	は	れ	、	本	本	一	て	所
人	素	意	復	分	な	ら	あ	ほ	水	中	大	論	ほ	、
に	晴	識	興	だ	が	さ	り	ど	や	が	震	語	し	人
な	ら	し	が	け	ら	れ	ま	あ	食	悲	災	一	く	に
り	し	て	遅	よ	生	な	せ	た	料	し	の	の	な	施
た	い	行	れ	け	き	が	ん	り	が	み	経	言	い	す
い	こ	動	た	れ	る	ら	。	前	不	に	験	葉	こ	こ
で	と	す	と	ば	姿	も	被	が	自	包	か	で	と	と
す	で	る	思	一	が	お	災	価	由	ま	ら	す	は	勿
。	す	こ	い	と	写	互	地	値	な	れ	学	。	相	か
	。	と	ま	い	さ	い	で	あ	生	ま	び		手	れ
	こ	は	す。	う	れ	を	は	る	活	し	ま		に	一。

今こそ本当の思いやりを…

「己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ」

# 「論語」の一節を引用したブックレットを後輩へ贈ろう

三年 組 氏名( )

## 「論語」の言葉の奥深さについて考えをまとめよう。

今日の学習を通して、「論語」の言葉が現代社会の様々な部分でも生きていることが分かった。特に、「東京オリンピック決定!」のテーマを選んだ人たちは、「吾が道は一を以て之を貫く」を支持していた。これは、「あきらめず主張し続けたことが結果につながった。」ととらえたり、「自分も部活動を通して、最後まで信念をもって取り組むことの大切さを学んだ。」という考えが多かったからだ。こんなに短い文にもかかわらず、孔子が生きていた時代からずっと色褪せない存在感に驚いた。他のテーマを選んだ人たちの考えも聞いてみたい。

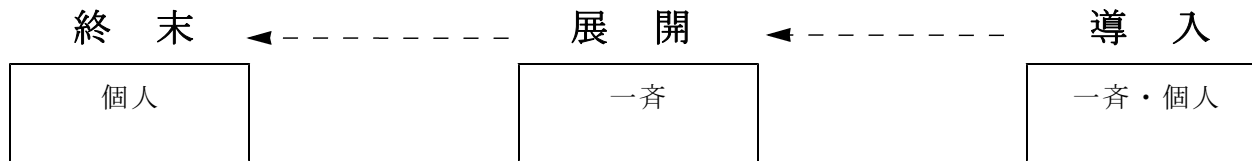
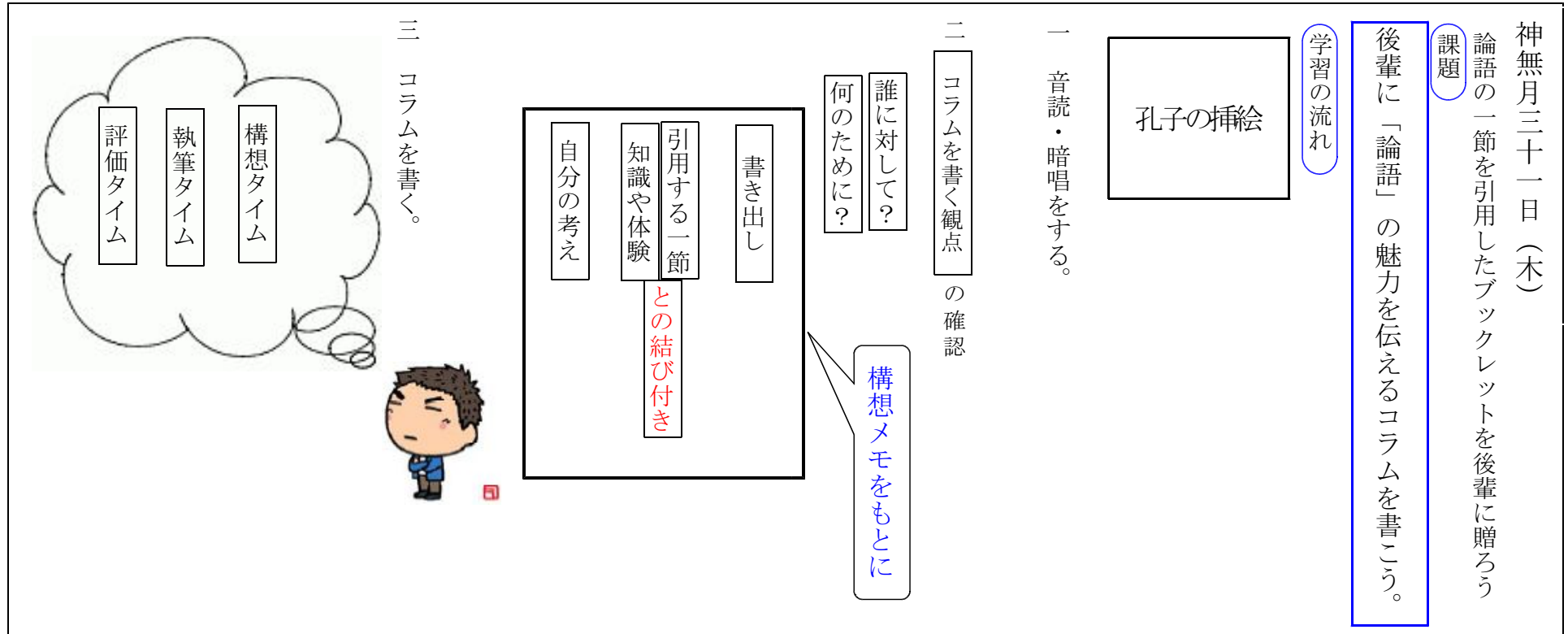
## 「論語」と現代の結び付きを基に、「人間の生き方」について考えをまとめよう。

・字数は一五〇字以上、二〇〇字以内で書くこと。  
 ・二段落構成で書くこと。 第一段落には、『論語』と現代の結び付きに触れること。  
 第二段落には、「人間の生き方」について自分の考えを書くこと。  
 ・「とらえ方」に続く書き出しで書くこと。

ん	こ	と	自	か		と	も	い	
で	と	い	分	れ	私	を	思	る	と
、	が	う	が	「	は	考	い	こ	こ
今	多	こ	し	と	、	え	や	と	ろ
後	く	と	て	い	「	て	り	を	で
の	な	だ	ほ	う	己	行	の	再	、
人	る	。	し	言	の	動	欠	確	「
生	と	そ	い	葉	欲	す	如	認	論
を	思	う	こ	を	せ	れ	か	で	語
力	う	す	と	逆	ぎ	ば	ら	き	「
強	。	れ	を	に	る	防	起	た	の
く	こ	ば	相	表	所	げ	き	。	教
歩	の	、	手	現	、	る	て	情	え
ん	気	喜	に	し	人	は	い	報	は
で	持	ん	も	た	に	ず	る	化	現
い	ち	で	し	い	施	だ	。	社	代
き	を	も	て	。	す	。	相	会	に
た	胸	ら	あ	そ	こ		手	の	通
い	に	え	げ	れ	と		の	問	じ
。	刻	る	る	は	勿		こ	題	て

指導者

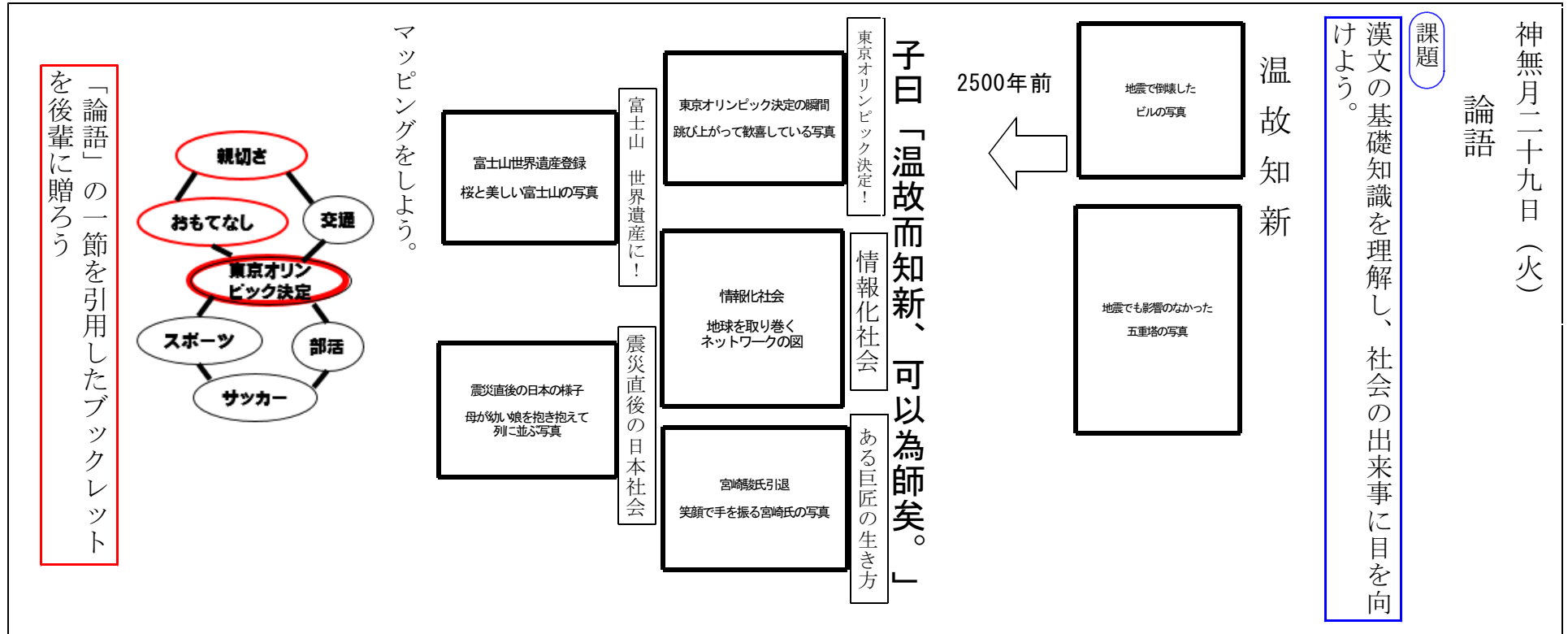
# 板書計画



準備するもの 自己評価カード, ワークシート, 挿絵

指導者

# 板書計画



終末

個人・一斉

展開

グループ

導入

一斉

学習形態

準備するもの 自己評価カード, ワークシート, 挿絵